



きじまさな
木嶋咲花 さん

第33回 MOA美術館
全国児童作品展 書写の部
「農林水産大臣賞」受賞

一点一画にこだわって
妥協は一切なし

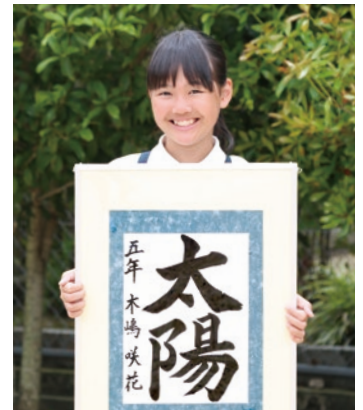
M OA美術館全国児童作品展書写の部応募総数5万3,215点の中から、唯一の農林水産大臣賞を受賞した勝山小学校6年生の木嶋咲花さんをご紹介します。

木嶋さんが書道と出会ったのは、6歳の頃。母親の勧めで書道教室に通い始めます。「お手本をよく見て、字のバランスや筆の運び方を教わりながら練習しています」と、ここまではよくある話。木嶋さんが全国で表彰される

までに上達した^{ひげつ}秘訣。それは、「これだ」と思うまで一切妥協をしないこと。

指導する豊田春園先生は、「基本がしっかりできていて、字にクセがない。熱心で、センスもあって、努力家。気に入らないとね、妥協できないみたいです」と、教え子の成長がうれしそうです。

「将来の夢は書家。これからも先生に教わって、努力をして、もっと上達したいです」夢をつかむその日まで、木嶋さんが手を緩めることはありません。



※写真はイメージです

関門海峡を 飛ぶ！ メガジップライン



市長コラム
希望の風
市長の部屋

まだまだ実現にはハードルがいくつも存在しますが、今回は国が私たちの夢を後押ししてくれたという大きな大きな前進を皆さんと共有したく、市長コラムのテーマとさせていただきます。

「乗ってみたい、一目見てみたい」と、多くの観光客が下関を目指して訪れることでしょうか。

この大きな夢にチャレンジしているのは、下関の事業者KMアドベンチャー。「そんな夢みたいな話…できたらすごいけど…実際どうなの？」と言われてきましたが、このたび国土交通省中国運輸局から、将来構想として発表されたのです。この事業が完成すれば、国内で最長の1740m、国際航路をまたぎ、最高速度は時速100kmにも到達するスーパーアトラクションが下関に誕生することになります。きっと世界中から

「関門ジップライン構想です！」ジップラインとは、ワイヤーロープに滑車をかけ、高低差を利用して人が降りるアウトドアアクティビティ。世界各地の遊園地やテーマパークなどに設置されています。その話がなんと、火の山から対岸の門司まで、関門海峡の上空を一気に滑り降りる計画として動き始めているのです。

皆さんこんにちは！ 前田晋太郎です。今月は、日本列島で最近話題沸騰中の下関案件をお伝えします。耳にしたことがある方もいると思います。そうです、「関門ジップライン構想です！」